

## 日本教材学会関東・甲信越支部 2019年度総会並びに研究会のご案内(最終)

日本教材学会関東・甲信越支部では、下記の日程で総会並びに研究会を開催いたします。研究会のテーマは、「『主体的・対話的で深い学び』と教材開発」です。本研究会におきましては、同テーマで2016年度から昨年度まで国語、算数・数学、英語と教科を絞り、先進的に教材開発を行っている教員や出版社、教職大学院の学生の方々にその実践研究を報告あるいは提案をしていただきました。そして、本支部の特色の一つである、教師と研究者、教育現場で使用されているドリルやワークを作成している出版社の方々と意見交換をし、実践の場から出版社へ、さらには出版社から全国へと情報が発信され、授業実践と教材開発の議論が深まるなど大きな成果を上げてまいりました。今年度は教科の枠を取り払い、教科及び教科外の実践等を報告・提案していただきます。今年度も多くの皆様の参加をいただき、活発な会となることを願っています。

2020年1月11日

日本教材学会 関東・甲信越支部

- 1 日時 2020年2月22日(土) 午後1時から4時35分まで
- 2 場所 早稲田大学 26号館(大隈タワー)502教室 住所:新宿区鶴巻町516  
JR山手線・高田馬場駅より都バス「学02」で「早大正門前(終点)」下車徒歩1分  
東京メトロ・早稲田駅より徒歩5分
- 3 研究会テーマ 「『主体的・対話的で深い学び』と教材開発」
- 4 当日の日程

12:30 受付開始

13:00 総会開会

13:30 研究会開会(研究会テーマ趣旨説明)

13:35 講演

「変革期に問われる教材の在り方ー主体的・対話的で深い学びの実現を見据えてー」

講師:早稲田大学 教育・科学総合学術院 李軍氏

14:35 事例及び論文発表(5名×20分) ※発表概要は裏面参照

① 「『人と人との関わり』に関するカリキュラム開発

～上学年の良好な人間関係を保つための資質・能力を育む活動の工夫～

府中市立府中第一小学校 教諭 大高幸一郎氏

② 「主体的・対話的で深い学びを目指して～公立中学の理科において～」

中野区立緑野中学校 主任教諭 永尾啓悟氏

③ 「学習指導要領の理念を踏まえた小学校プログラミング教育の推進」

港区立白金小学校 校長 吉野達雄氏 教諭 新村哲氏 教諭 今野希洋氏

④ 「高等学校世界史における『探究』を意識した授業実践」

早稲田大学教職大学院 修士課程2年 鎌田 真有氏

⑤ 「理科6年『電気の利用』のプログラミングで用いる各種教材の特徴と分類」

(株)日本標準 下村一郎氏

16:15 発表者とフロアとの意見交換

16:30 まとめ・閉会の辞

16:35 閉会

【担当】細谷美明(関東・甲信越支部長)

【問い合わせ先】日本教材学会事務局(澤崎、今多)

〒162-0831 東京都新宿区横寺町64-2 電話 03(5946)8717 学会Webサイト [www.kyozai-gakkai.jp](http://www.kyozai-gakkai.jp)

## ＜発表事例の概要＞ ※順不同、敬称略

「『人と人との関わり』に関するカリキュラム開発」  
～上学年の良好な人間関係を保つための資質・能力を  
育む活動の工夫～

府中市立府中第一小学校 教諭 大高幸一郎

教育問題の大部分は、人間関係が円滑に進まないことによるものである。いじめ、不登校、児童虐待、ひきこもり、校内暴力など全ては「人と人との関わり」が円滑に進まないことが大きな原因である。しかし、小学校の教育課程の中で、直接「人と人との関わり」について学ぶ教科・領域等はない。そこで、本研究では「総合的な学習の時間」でこの課題を扱い、良好な人間関係を保つことのできる資質・能力を身に付けられるようなカリキュラムを開発する。

良好な人間関係を保つことのできる資質・能力として、平成29年度「思考力」平成30年度「相手意識」令和元年度「親子関係」に着目して、カリキュラム開発を行った。

「主体的・対話的で深い学びを目指して

～公立中学の理科において～

中野区立緑野中学校 主任教諭 永尾啓悟

昨今の教育改革を学んだり、これまでの自分の経験を振り返る中で、これからの社会を生き抜く生徒たちに、「本当に必要な力は何か」「そのために授業は何ができるか」そう考えたとき、「主体的・対話的で深い学び」を本当に実現していく必要があると感じた。「教師が面白い教材や話術で楽しませる授業」ではなく、「生徒が自ら学習を楽しみ、深く学ぶ授業」を目標にした。

今回紹介する事例は、3年生の化学分野「化学変化とイオン」である。観察や実験を通して、水溶液中のイオンの存在やイオンとは何かといったことについて学ぶ。課題を提示し、教科書やその他の資料を活用しながら実験を行い、その過程をタブレットPCに記録していく。最後にその過程や結果、分かったことなどを発表する流れである。イオンや電離など初出の単語が出てくるが、それぞれについて教師側からの説明は行わない。発表は「初学者でも理解できるように」という条件のもとで行うことで、それらの初出の単語についても深く理解できるようにした。

このほか、別の単元の授業実践例や定期考査前後の取り組みの実践を紹介できればと考えている。それらもすべて「生徒が自ら学習を楽しみ、深く学ぶ授業」をねらいとしている。

「学習指導要領の理念を踏まえた小学校プログラミング教育の推進」

港区立白金小学校 校長 吉野達雄 ほか

令和2年度よりプログラミング的思考を育むプログラミング教育がどの学校でも実施される。しかし、その準備がなかなか進んでいない現状がある。そこで、プログラミング教育の切り口は様々であるが、ファーストステップのひとつとしての「白金小学校プログラミング教育パッケージプラン」を提案する。プログラミングに会う子供たちの視点、指導者側の教師の視点、機器の活用を含めた環境整備などから考えていく。

「高等学校世界史における『探究』を意識した授業実践」

早稲田大学教職大学院 修士課程2年 鎌田 真有

新学習指導要領では主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成を目指しているが、学校の現状はそれらが不十分であること、課題を追究したり解決したりする授業が行われていないことなどが課題として挙げられている。そこで、2年後に実施される「世界史探究」に向けて「探究」を意識した授業を実践した。本発表では「食の世界史」をテーマとして、絵画の読み取りや既習知識と関連付けながら課題に対する探究活動を行った成果と課題について報告する。

「理科6年『電気の利用』のプログラミングで用いる各種教材の特徴と分類」

(株)日本標準 下村一郎

新学習指導要領に例示されたプログラミング体験活動のうち、理科6年の「電気の利用」の単元では、電力の効率的な使用の目的で、プログラミングによる豆電球の点滅制御を行う。この活動にはプログラミング用のPC、タブレットの他に、電流制御をするハードウェアが必要になる。現在多くの教材メーカーからそれぞれ特徴のあるハードウェアが発売されているが、一方で学校のICT環境によっては使用に制限を受ける場合もある。

令和元年12月に東京で行われた、「電気の利用」とプログラミングに関するイベントを紹介しながら、各社教材の特徴と、ICT環境との関係を分析してみたい。